唐土訓蒙圖彙

自六至八

目次

唐土訓蒙圖彙巻之六

名の下に和名を附

人事

此部ハ武藝よりして農家の楽およひ傀儡鬪草百戯のたくひまでおほくのせて乃らしむとなし

射法圖

實握射ノ圖

此法ハ弓と一ぱいに引みて左乃肱と直ふして弦月のごとくふしまつとなしめつふせく月れてもの気の通りをひきまはしくし

同上 掌心推射ノ圖

此法ハ弓と引みて肱のまがり心と對し射の平かなると衡乃ごとくにしてらい八分の勢アす極しとなり

馬上箭圖

馬上にて射ることなり

同上

馬芸前圖

上まへなり

拳法圖一

和にいふやはらとりてし

以下十六圖同じなり

拳法二

拳法三

拳法四

拳法五

拳法六

拳法七

拳法八

拳法九

拳法十

拳法十一

拳法十二

拳法十三

武藝圖譜通志卷之四

拳法十四

拳法十五

拳法十六

鎗法圖

和よりの上鎗とつく上一とくし

夜叉探海勢

四夷賓服勢

十面埋伏勢

指南針勢

青龍獻爪勢

唐土訓蒙圖彙巻六

邊攔勢

跨釼勢

鐵旛竿勢

鋪地錦勢

朝天勢

滴水勢

鐵牛耕地勢

騎龍勢

白猿拖刀勢

靈猫捉鼠勢

琵琶勢

太山壓卯勢

美人認針勢

闖鴻門勢

蒼龍擺尾勢

伏虎勢

推山塞海勢

太公釣魚勢

鷂子撲鵪鶉勢

これ鎗ハ中華の昔羲農元ん戈を造り軒轅槍を作り諸葛孔明竹て木と以て槍となし戚を以て頭となし其長二丈或竹と以て作る長二丈五尺蓋是日本の鏜と相似たり日本の鎗の学倭国の制する處にして鎗と術と同しくするものなり

習藤牌圖

牌ハタテナリ叙術の類之

開扎衣勢

仙人指路勢

斜行勢

滾牌勢

躍歩勢

金雞畔頭勢

低平勢

埋伏勢

習狼筅圖

竹の枝〻のまたと葉までそり鎗の長さにして敵の兵器をふせぐ器なりそのつかひの術なり

中平勢

騎龍勢

鉤開勢

架上勢

閘下勢

拗歩退勢

棍法圖

和にいふ棒と云ふごとし

大當勢圖

小當勢圖

倭人捧盤勢圖

大弔勢圖

滴水勢ノ圖

齊眉殺勢ノ圖

走馬回頭勢ノ圖

直符送書勢ノ圖

倒頭勢ノ圖

上剌勢ノ圖

閃腰勢ノ圖

下穿勢ノ圖

撃壌圖

これ村民野老のたのしみ也その具ハ木を以て作る前廣く後鋭長一尺四寸闊三寸其形履の如し戯せんとする時先一の壌を遥の三四十歩に側て手中の壌を以てうちなけてあたる者をよしとす

耨鼓圖

耨とハ田の草をとることし その時笑語して務を妨んことを防ためにうつ鼓なり

下接勢圖

高絙圖（こうこうのづ）

あれ和うり
に上けれ
きやうりかお
ねきの頽
なり

傀儡圖（くゑいらいのづ）

あれ和り
にふたん
こうん
おそ佶りいと
うらかん
數なりま

角觝圖（かくていのづ）

和よ角抵とすまうといふ宋の
ますまハ拳の數てちがふく

闘牛圖（とうぎうのづ）

うしとくたくちつき合
せてころたくふまたなり

闘草圖（とうさうのづ）

百の草をとりて其のあはせとして勝負をあらそふわざなるべし

闘雞圖（とうけいのづ）

にはとりをたゝかはせてなぐさみとし周の世よりはじまる三月清明の節にするなり

彈圖（だんのづ）

和名はじきともいふ古へは葬禮に死骸をまもりし爲也

蹴踘圖（しうきくのづ）

和名まりけまりともいふ黄帝の時よりはじまる

呑劍圖

今いふそうつからくりの藝なり

弄甌圖

今いふしれ玉とりの藝也

走火圖

縁竿圖

今いふとしまわの藝なり

鞦韆圖

北方戎狄寒食の節に至てしうせんとうん軽趫をならふ後中国これにならふて縄を木にかけてひとをのせてあそふなり

唐土訓蒙圖彙巻之七

器用之一

器用

此部ハ上古の器よりはじめて農具兵器舟車筆硯文房の道具にいたるまでのせておのれとなし

卣

古器 上古秬に酒とする器うつハものなり

蜼

神をまつるとき酒を盛うつハもの也

斝 酒をもるうつハものなり王の爵なり

角 これハ爵に似して張なきものなり うさら去を用ひさるなり

杯 酒三合とりる 高さ二寸七分 ふかさ二寸六分 わたり二寸三分 濶さ三寸二分

敦 黍稷をといるるうつハものなり

鏞 口鑄とし 以ハ器に似てひききうつハものなり 濡へるものをもるうつハなり

椇 斎の世に出さるる俎なり 枳椇の木のまがりたるをかたどる

梡俎 長さ二尺四寸 ひろさ一尺 おとし

嶡俎 梡俎に似て横木あるものなり 王の器なり

尾鋪 天子を祭るに用る也 中に五斗を受く 口の径一尺 脰の高さ二寸

畢 肉をあぐるものなり

棜 長四尺 廣さ二尺四寸 足の高さ三寸 漆を以て中を赤くぬる 大夫士の用ゆるものなり

椀 長四尺廣さ二尺四寸深さ五寸俎を陳ぬるものなりその式ハ案のごとくなり

罋 醯醢と盛るもの也高一尺二寸と受い斗のものなり

鉶 羹一斗を盛るものにて三足よしく両耳あり

大罍 瓦をもつてつくれる尊也社土の神をまつるに用ゆこれ土氣を尚ぶゆへなり

瓢齋 門をまつるにこれを用ゆ瓠を尊として門の害を除くなり

蜃 山川四方をまつるにもちゆ

觵 兕觥と同じ野牛の角を以て作るさかづきすれば四斗盛るなり。兕ハ野牛一角アリ青色重サ千斤

斛 四升と豆といふ四豆と區といふ四區と斛といふ量の異名なり 六斗四升量

椰 黒漆の尊に朱の帯を腹につきを絡へつた

散 尊の飾なきゆゑとりよし

庾 二穀と實るこれを量る器甄土を以てこれをつくる

鳥彝 鳳 鳳を畫く祭祀は鬱鬯をもる雉を畫き雞を畫き虎を畫く黄彝斝彝とこれ同し類也

犧尊 一 尊
のまん中に牛を飾りまたは赤漆を用ゆ象尊山尊壺尊大尊著尊等も同じ類なり

疏布巾 尊の冪にて二尺二寸天地ともにつゝむにこれを用

畫布巾 五色の雲気を畫く六彝の冪也二尺二寸の幅にて圓なり

籔 竹にてつくる十斗を斛といふ十六斛を籔といふ

甑 土を以てこれをつくる厚さ五分唇一寸七穴を穿つ

梱 木を以てつくる爨と和する器長一尺傳三寸 ○和ニ云杓子ノ類ナリ

錡 釜と同じ用をなしたり足なきを釜といふ

登 大羹をもるひろさ径一尺八寸高さ二尺四寸

鑊 肉と煮および魚臘とうの器なり

篚 竹をもつてこれをつくる長三尺廣一尺深六寸足の高二寸

簠 竹をもつてこれをつくる祭祀のうつはもの也

筥 筐 篚と同じ製形圓にして長し五升を受べし

青圭 長九寸上各半寸を剡む

信圭 諸侯信圭をとる長七寸人形を琢て信を飾しん

躬圭 伯ハ躬圭をとる長七寸人形を琢る躬を飾しん

鎮圭 王ハ鎮圭をとる也長一尺二寸四の鎮山を以て琢て飾しん

桓圭 公ハ桓圭をとる也長九寸雙植を琢て飾しん

大圭 長三尺天子これを服す也

冒圭 長四寸天子以て諸侯を朝をしむ

穀璧 長三寸

瑑圭璋 長八寸覜聘とく交を衆来て覜へるゐなしきに用るかゆ

两圭有邸 長二寸半ほて外方にうらところなり

玄璜 北方乃半璧を璜とらふ

四圭有邸 玉璧ハ六寸中に居て四面各圭と琢たく長一尺二寸

蒼璧 天と禮すりに用也圓にして子らり九寸わつさ三寸

黄琮 地を礼するに用ゆ每角一寸六分に剡つ長け八寸厚一寸

琬圭 長九寸徳を治め好を結ぶ琬ハ圜といふの義し

琰圭 長九寸上に鋒あり

大璋 長七寸諸侯女を聘するに用ゆ

組琮 組を以てくくり琮を繫く天子七寸宗后ハ五寸以て權とす

大琮 一尺二寸内鎮とす宗后これを守る

穀圭 長七寸難を和し女を聘す信なり

赤璋 南方 火の色にかたどり半圭を璋といふ

白虎 西方 金の色に象る長九寸廣さ五寸伏虎を刻む高三寸

蒲璧 諸侯の封圭これを執て贄とし以て瑞と王に合すなり

穀璧 朝覲の時諸侯王に會同すれば各執る所の圭あり子ハ男ハ位の執るし

繅藉 天子の繅藉五采の文の繅を以て玉と薦木とを中幹とし章衣を以て畫なり

繅藉 諸侯の繅藉三采の文乃繅にて木を中幹とし章衣を以て文を畫なり

大小篪

大小竽

古缶

拊鼓

大壎

小壎

建鼓

雷鼓

靈鼓

霊鼓

霊鼓

路鼓

路鼓

路鼓鼗鼓

鼖鼓圖

晋鼓圖

應鼓圖

鼙鼓圖

鼛鼓圖

敶鼓

鼜鼓圖

提鼓

竹銅鼓

羽舞

皇舞

帗舞

璧翣

旄舞

戚

干

舞

節

麾

翟

雉の毳羽をつゝる
舞に束つねなり

纛

旌

相

應

牘

雅

金鉦

金鐃

射侯

豹侯

熊侯

大侯

麋侯

二正侯獸侯熊首

兕中

皮豎中

鹿中

閭中

豻侯

獸侯虎豹首

獸侯鹿豕

三正侯

五正侯

之

虎中

鷹船
船首敵を衝の堤と発して鋭き窓をとおすあり

漁船
漁船の中にて至て小く至て用とし敵を瞭るべし

両頭船
海運風に逆ひ用をなすもの

蜈蚣船
此舟は火攻の具をのせて用をなすもの

游艇
帆檣なく艇の上より槳をとる、くなる疾くし

蒙衝
生牛の革を以てつゝむ矢石もやぶることなし

樓船
船上楼とつくる三重穴弩と窓をひらくなり

走舸
棹夫を多くして往返飛が如し勇力の戦士を乗すべし

闘艦

戦船の家大にして城の如くうまへしするなり

海鶻

船の形頭低く尾高く鶻の翼の如く風涛の患なし

皮船

生牛馬の皮竹を以てからとしかねの孔の如し水に浮し

木罌

甕缶を以て筏とし縄にて繋をとことくうわひなり

浦筏

蒲を束てさきを尖して槍の状の如して水を渡用とすなり

撫筏

川を王えま捨をとゝをてすゆもの

火船

葭薪をのせて風に乗火を発なり

車制

輕艇

うろ波の飾なり

大輅圖

蹲龍
車乃かざりし

羗轅
轅の飾りし

輈圖
車のおの曲木のところ句衡といふ轅と同し

周元戎圖
元戎十乗とりつゞく先行と
啓くし元ハ大の意戎ハ戎車
軍の前鋒也甲士三人同く載左ニ
右ニ矛中に御し兵戟矛を載てしきむし
幟ニ鳥隼の章とあるべし

秦小戎圖

墨車

大夫の乗る所の者なり

重翟

王后の輅なり

鳩車

鳴禽を両輪の間に盛背に子を負ふ兒のりてあそびし

大車圖

指南車圖

高一尺四寸二分下長七寸四分轄木口圓徑三寸七分皆と木口より立口圓徑三寸四分あと椽入形とつくりて手常に南をさす足の底圓竅とをし軸を通し旋轉をすに蚩尤の上とふむ古今注曰指南車黄帝作ると

旂鈴

馬のかざりとし

馬上諸器圖

玉輅

輅に五あり金輅象輅革輅木輅と合せて五輅也そのひとつをこゝにあげて外は畧に五輅おなじく形そ同しくて彩色のかはりあるばかりなり

木女頭

形制女牆の如し板を以てつくる高六尺闊五尺下両輪を施し軸に拐木二條を施し城攻に用ゆ

撞車

制衣の如し権のやうし城をはく者なり

刀車

城門をせめやぶらるゝ時これにて塞なり

風扇車

地道の中にて敵にあひ石を飛し火球をひる器なり

艳車（さしや） 闊三尺 高二尺 農具とのぞ凡 雨ニあふ 晴れまは と落て 全しれ

下澤車（かたくしや） 泥濘（でいねい）れ 中とゞく に轉（てん）し やたき車 なすり

安車制（あんしやせい）

大轎（たいきやう） 文職（ぶんしよく） 三品以 上の者 用之

籃輿（らんよ）

罾網

肩輿（けんよ）

張絲網（ちやうしまう）

釣蠏蟮

釣鼈

捕蛙

推麗

魚叉 やす

罩筌

打艋艭

打笆篰

蟹簖

蟹をとるうきをかり

古戈

戚

揚

酋

夷

兵器

二丈四尺

二丈

羽

旄

旌

物

旗

旞

獲

旗圖　旐圖　旃圖　旂圖

大常圖　纛旗圖

桿高一丈五尺
旗大一丈

繡氅　幢　黄麾　絳引旛　響節

鉞節　骨朶　鐙杖　鐙棒　金吾　立瓜　臥瓜　黄[illegible]　弓

弩（ど）おほゆみ　又 いしゆみ

弩の製甚（はなはだ）おほく多くあれどもここにはひとつを載此の五人張り三人張などいふも弩なり

黒漆弓（こくしつきう）
麻背弓（まていきう）
黒銅箭（こくとうせん）
鑞骨鏖（らうこつれい）
鍦箭（しせん）
木撲頭（もくぼくとう）
火箭（くわせん）
烏龍鐵脊（うりうてつせき）
鳴鶻（めいこつ）
鳴鈴飛鶻（めいれいひこつ）
弓箭箶簏（きうせんころく）
弓韣（きうとく）
弩箭箶簏（どせんころく）

虎韔（こちやう）ゆみぶくろ
魚服（ぎよふく）やなぐひ
決（けつ）ゆがけ
拾（しう）おしまき

是等かくのごとくなれどもこのたぐひのものあまたなれども訓蒙圖彙に畢ず出たるはもらされたる是をのぞんで考索すべし

燕尾牌　式　挨牌　旁牌　騎兵旁牌　竹立牌

藤牌　蒺藜　蒜頭　鐵鞭　雙鉄鞭　鐵簡　鐵鏈夾棒　訶藜棒

鉤棒　提棒　杵棒　白棒　抓子棒　狼牙棒　搗馬突槍　釵

筆刀　手刀　掉刀　鞸（刀のさや）　雙鉤鎗　單鉤鎗　環子鎗　素木鎗

大斧

屈刀

偃月刀

戟刀

眉尖刀

鳳嘴刀

鴉項鎗

錐鎗

梭鎗

槌鎗

大寧筆鎗

拒馬木鎗

拐突鎗

抓鎗

拐刄鎗

標鎗

長鎗

梨花鎗

砲車

石をはさみて城外の敵をうつ城中より高下をはかりて石をとばしむ其制数品ありこまかにして二三十人と挽く

飛炮

城へ付てせむる者をやくべし

地雷連砲

威遠砲 高二尺八寸底より火門まで高五寸火門腹より高三寸二分砲口径二寸二分重百二十斤火門の上に活蓋ありて風雨を防ぐべし

鐵火床

遊火鉄箱

引火毬

鉄嘴火鷂

竹火鷂

蒺藜火毬

火棒

横筒

撈練杖

火罐

挓挽

杓

沙羅

通錐

火鈴

迅雷砲

銃棍

火鎗

霹靂火毬

焠錐

拾鉄

鈎錐

五雷神機

三捷神機

萬勝佛狼機

子砲

皮袋

攂足殺馬風鐮

地湧神鎗

鏡架

大追風鈴

上軌

下軌

轉輪

筒底

前口

火門

嚕蜜鳥銃

弾模

藥嚢

藥瓶